佛念大

嵯峨

京都・嵯峨狂言クラブ記念誌

嵯峨狂言クラブ

創立36周年

面：綱（つな）

土蜘蛛：源頼光と家来・渡辺綱・平井法昌が妖怪土蜘蛛を退治する物語。見所は立ち廻りで、蜘蛛の糸が飛び交う場面は迫力満点です。

「綱」の面：渡辺綱は源融を祖とする嵯峨源氏の五代目にあたります。摂津国西成郡渡辺に居住していたことから渡辺性を名乗っています。

嵯峨狂言クラブで伝統文化継承の一環として、子どもたちに「綱」の面を作成するワークショップを開きました。子どもたちの自由な発想でつくられた百人百様の「綱」。あれ？こんな顔の方、どこかで見たことあるような…？

北村基彰（西京極小四年）

土坂美こと（山ノ内小一年）

爲季源太（嵯峨小四年）

爲季新太（嵯峨小四年）

田部井慧吾（嵯峨小六年）

延原啓太（一燈園小二年）

松本理玖（嵯峨小六年）

山下せり（嵐山小二年）

岡田琴美（高雄小五年）

岡田真由美（高雄小二年）

北村孟裕（西京極小六年）

松本波留（嵯峨小二年）

大谷隆弥（朱雀第一小二年）

嵯峨狂言クラブ

創立36周年

京都・嵯峨狂言クラブ記念誌

京都・嵯峨狂言クラブ記念誌

目次

巻頭写真…… p4
はじめに…… 加納敬二 p9
嵯峨大念佛狂言とは…… 加納敬二 p10
年表…… p12

Ⅰ期（1988年～2000年）

狂言クラブのこどもたちへ（1992年作成）…… 故中村善一郎 p16
「嵯峨大念佛狂言」を小学生に教える …… 小泉順邦 p18
「偶成」…… 小西小三郎 p20
嵯峨狂言クラブの思い出…… 村上恵梨 p21
４才から嵯峨狂言にかかわって今！ …… 橘　隆仁 p22
伝統文化の普及・継承を高校生に…… 加納友矢 p24
舞台の経験が生かされて…… 田中小弥子 p25
Ⅰ期の冊子…… p26

Ⅱ期（2001年～2014年）

身体で「伝える」「魅せる」 …… 升光玄太 p30
私と家族と狂言と…… 高尾美穂 p31
「土蜘蛛」の太刀持ちをまかされて …… 福永真奈 p32

大切にしている言葉…… 高尾健蔵 p33
原点のような場所…… 高尾雄一郎 p34
狂言クラブから学んだこと…… 北川拓歩 p36
夢窓幼稚園が狂言クラブ発表の場として…… 升光泰雄 p38
Ⅱ期の冊子…… p40

Ⅲ期（2015年～2024年）

稽古中は日々「鍛錬」…… 松井銀司 p44
「杏ちゃんなら大丈夫！」…… 小松　杏 p45
女性でも舞台に立てるよう…… 松本紗奈 p46
これからは「若葉会」で演者として …… 爲季なぎ p48
演目理解のための冊子作りをめざして…… 爲季法子 p50
Ⅲ期の冊子…… p52

土蜘蛛「綱」の面のレリーフ作りを終えて …… 高尾美穂 p54
地域を越えて伝統芸能の次世代への継承、育成のあり方 … 長谷川奨吾 p56
これからの嵯峨狂言クラブ…… 加納敬二 p59

附章：会則…… p62

愛宕山遠望（広沢池南より）2008年2月10日撮影

Ⅰ期

1988-2000

狂言クラブ創立時の部員たちと指導者（後列右端：故中村善一郎氏　左端：小泉順邦氏）

演目「大原女」を演じる部員たち
狂言堂
（1988年11月秋季発表会）

「小学生のための嵯峨念佛狂言を楽しむ会」で「餓鬼角力」を演じる部員たち
狂言堂
（1992年4月29日）

狂言クラブ秋季発表会にむけ「土蜘蛛」の演技を指導する故中村善一郎氏（中央）
狂言堂
（1995年11月18日）

Ⅱ期

2001-2014

「大原女」「羅生門」
右京区夢窓幼稚園ホール
（2009年）

「愛宕詣」
夢窓幼稚園公演
（2009年）

「羅生門」
夢窓幼稚園公演
（2010年）

「羅生門」
狂言堂公演
（2009年）

「大原女」
狂言堂公演
（2009年）

「大江山」
狂言堂での公開稽古
（2012年）

Ⅲ期

2015-2024

狂言堂修理中のため仮設稽古場で集合写真↑ と
←稽古中
（2018年）

「橋弁慶」の稽古中
狂言堂
（2019年）

「土蜘蛛」
たすき掛けの稽古中
狂言堂
（2021年）

「土蜘蛛」
飛び込みの稽古中
狂言堂
（2021年）

コロナ禍での稽古
狂言堂
（2022年）

「蟹殿」衣裳合わせ後の集合写真
狂言堂
（2024年）

はじめに

嵯峨大念佛狂言事務局長
加納 敬二

嵯峨狂言クラブ（以下、狂言クラブ）の創設は後継者不足などで途絶えかけていた嵯峨大念佛狂言（以下、嵯峨狂言）を子供たちの手でも受け継いでいこうと市立嵯峨小学校と嵯峨狂言保存会の会長であった故松井秀夫氏（写真1）と会員の故中村善一郎氏・小泉順邦氏が中心となって始まりました。小学一年生から六年生までの男女計20人からスタートし、嵯峨狂言保存会の指導により毎週土曜日に稽古を重ねてきました。そして2024年で36周年をむかえ、創設時に入部した子供たちも今40才台半ばを過ぎようとしています。

今回、36年間継続してきた狂言クラブの小史を記録として、また次世代に繋げていくために記念誌として残してほしいと、クラブ関係者や卒部生そして内外からの声もあがり、作成に向け、昨年５月に記念誌作製の助成金を申請したところ、９月に助成が決定され同月から本格的に事業として進めてきました。作成にあたり、狂言クラブ創設にかかわってこられた指導者、そして卒部生やその保護者をはじめ、これまで狂言クラブを支えていただいた関係者のみなさんに、その頃やこれまでの想い、エピソードそして近況報告などを中心に寄稿をお願いしました。また現役部員の子どもたちには『土蜘蛛』に登場するこわもての「渡辺綱」の面をモデルに各自が紙粘土でレリーフを作製し、作製した面の集合写真を記念誌の表紙にして、今の狂言クラブ員の各自の個性を反映することができました。

記念誌では狂言クラブ創設期をⅠ期とし、指導者の交代期をⅡ期、現在に繋がる体制期をⅢ期としました。各期では、クラブ員だった当時を振り返り、各個人にとっては、どのような場であり意味をもっていたのか、今それがどのように生かされているのかといったことが、ひしひしと伝わってきます。

写真１　楽屋で着付け中の故松井秀夫氏
（1988年11月秋季発表会）

地域の歴史的・文化的特色をしめす

嵯峨の伝統芸能

嵯峨大念佛狂言とは

加納 敬二

五台山清凉寺（嵯峨釈迦堂）の境内にある狂言堂で行われる狂言。壬生寺、引接寺（千本えんま堂）と並んで、京都の三大念佛狂言として知られている。

弘安２年（1279）円覚上人によって始められた清凉寺の大念佛会に由来するとされる。保存会が所蔵する古面に享禄２年（1529）の墨書があることから、室町時代には能面を使用した狂言が行われたことが分かる。

昭和38年（1963）後継者養成が困難であることから一旦中断されるが、昭和50年（1975）10月に嵯峨大念佛狂言保存会を結成して復活し、昭和61年（1986）に国の重要無形民俗文化財に指定された。

壬生狂言同様、無言劇であり、狂言方のほか囃子方と後見がある。囃子方は、鉦、太鼓、笛で構成され、鉦（カン）と太鼓（デン）による「カン・デン・（休み）・デン・カン・デン・デン・（休み）」と「カン・デン・デン・デン・カン・デン・デン・（休み）」という２種類のリズムが基本となっている。鬼や蜘蛛の登場や立ち回りの際には「ハヤガネ」と呼ばれる鉦の連打がある。横笛は九孔（通常は七孔か六孔）の大変珍しく、嵯峨狂言独自のものである。

後見は舞台上で役者の着替えを手伝ったり小道具の世話をしたりする。役者に突然の事故があった際、面をつけずにその代役を務めることもあることから、経験などを積んだ長老が務める。

演目は「カタモン」と「ヤワラカモン」の２種類に分けることができる。カタモンは能楽系の演目で、ヤワラカモンは狂言仕立てのコミカルな要素を持った演目を指す。

〈カタモン〉土蜘蛛

〈カタモン〉

「土蜘蛛」「羅生門」「大江山」「熊坂」
「橋弁慶」「船弁慶」「大仏供養」「道成寺」
「紅葉狩」「夜討曾我」「百萬」

〈ヤワラカモン〉

「花盗人」「愛宕詣」「釈迦如来」
「とろろ」「縛り坊主」「大黒狩」
「大原女」「蟹殿」「餓鬼角力」

「釈迦如来」は、嵯峨大念佛狂言のみの演目として注目される。嵯峨の念佛狂言は、他の狂言に比べておおらかな古風さをよく伝えており、その点でも貴重なものである。

現在、毎年４月の土曜日・日曜日のうち３日間からなる春季公演、円覚上人の命日である10月26日に近い日曜日に行われる秋季公演の２公演を中心に実施されており、３月15日の清凉寺お松明式、11月の嵐山もみじ祭でも公演がある。

狂言クラブは３月15日お松明式以降の土曜日に狂言堂で成果発表会として公開している。

〈ヤワラカモン〉釈迦如来

京都・嵯峨狂言クラブ　略年表

	弘安2年（1279）3月	**円覚上人道御**が嵯峨大念佛会を始行する
	応永21年頃（1414）	清凉寺本「融通念佛縁起絵巻」が制作される
	享禄年間（1528～1532）	保存会に伝わる男面「伯蔵主」（享禄二年墨書銘）
	天文年間（1532～1555）	保存会に伝わる女面「深井」（天文十八年墨書銘）
	昭和38年(1963)	この年より嵯峨大念佛狂言活動が一時中断する
	昭和50年（1975）10月	**復活に向け嵯峨大念佛狂言保存会結成される**
	昭和61年（1986）	**国の重要無形民俗文化財に指定される**
Ⅰ期	昭和63年（1988）6月	**嵯峨狂言クラブ誕生**　右京区の市立嵯峨・広沢・嵐山（元嵯峨学区）の三小学校が「嵯峨狂言クラブ」を結成 嵯峨校体育館に毎週土曜日に集まり保存会故松井秀夫会長を中心に同会員故中村善一郎氏・小泉順邦氏が指導
Ⅰ期	昭和63年（1988）10月23日	クラブ結成後、保存会が全面協力し狂言堂で初めての公演 演目は「蟹殿」「餓鬼角力」
Ⅰ期	昭和63年（1988）11月12日	嵯峨学区敬老交流会に「蟹殿」で初出演
Ⅰ期	昭和63年（1988）12月26日	嵯峨狂言クラブがテレビ大阪「町ごとドンドン生放送」に出演
Ⅰ期	平成2年（1990）11月3日	市教育委員会主催「第2回生涯学習フェスティバル（まなびピア90in京都）」に嵯峨狂言をはじめ桂六斎念仏、白川女の踊りなど15グループが成果を披露、約500名が参加。（**写真1**）
Ⅰ期	平成2年（1990）12月2日	狂言クラブ卒業生お別れ会（6年生を送り出す会）で 曇華院、鹿王院見学

写真1

写真2

Ⅰ期	平成7年（1995）5月30日	京都市より市民憲章推進で嵯峨狂言クラブが表彰される（**写真2**）
Ⅱ期	平成20年（2008）9月13日	右京区常磐野小学校PTAふれあい事業に狂言クラブ「蟹殿」「土蜘蛛」公演
Ⅱ期	平成20年（2008）10月25日	嵯峨小学校体育館にて狂言クラブ「土蜘蛛」公演
Ⅱ期	平成21年（2009）11月15日	狂言堂で狂言クラブ「大原女」「羅生門」公演
Ⅱ期	平成21年（2009）3月7日	右京区夢窓幼稚園で初めて狂言クラブ春季公演　「愛宕詣」「とろろ」「土蜘蛛」
Ⅱ期	平成22年（2010）3月6日	夢窓幼稚園で狂言クラブ春季公演「大原女」「羅生門」
Ⅱ期	平成22年（2010）3月28日	狂言クラブ卒業生お別れ会（6年生を送り出す会） 大文字山登山と白沙村荘に行く
Ⅱ期	平成23年（2011）3月5日	夢窓幼稚園で狂言クラブ春季公演「蟹殿」「橋弁慶」
Ⅱ期	平成24年（2012）3月10日	夢窓幼稚園で狂言クラブ春季公演「蟹殿」「土蜘蛛」

円覚上人墓
（清凉寺本堂北の覚勝院墓地）

Ⅱ期	平成24年（2012）12月9日	右京ふれあい文化会館で公演「大江山」
	平成25年（2013）3月23日	夢窓幼稚園でワークショップと狂言クラブ春季公演「大江山」
	平成26年（2014）3月1日	夢窓幼稚園で狂言クラブ春季公演「花盗人」「紅葉狩」
	平成26年（2014）10月19日	保存会の秋季公演で25年ぶりに狂言クラブ公演「新蟹殿」
Ⅲ期	平成28年（2016）2月27日	夢窓幼稚園で狂言クラブ春季公演「阿吽」「新橋弁慶」
	平成28年（2016）11月	**狂言堂修復工事開始**　仮設建物での稽古が始まる
	平成29年（2017）2月18日	夢窓幼稚園で狂言クラブ春季公演「橋弁慶」「船弁慶」
	平成29年（2017）8月19日	狂言堂修復工事見学会で狂言クラブ有志が土壁塗り体験（**写真3**）
	平成30年（2018）3月3日	夢窓幼稚園で狂言クラブ春季公演「花盗人」「蟹殿」
	平成30年（2018）8月	狂言クラブ有志で狂言堂修復中の大走に一二三文様（ひふみもんよう）で川砂利を厄除けのため挿入する作業に参加
	平成30年（2018）9月	月末に狂言堂修復工事完了！
	平成31年（2019）2月23日	夢窓幼稚園で狂言クラブ春季公演「橋弁慶」「大原女」
	令和元年（2019）6月2日	佛教大学宗教文化ミュージアム第40回シアター公演「民俗芸能を担う若者たち―嵯峨大念佛狂言の若手育成―」に「橋弁慶」で公演（**写真4**）
	令和元年（2019）12月15日	京都新聞ジュニアタイムズの「まつりの子どもたち」に狂言クラブが特集される。
	令和2年（2020）2月	右京区人権啓発事業「右京はーとふるシアター　こころの花」映画化事業に参加協力
	令和2年（2020）3月7日	夢窓幼稚園　狂言クラブ春季公演「釈迦如来」「花盗人」
	令和3年（2021）3月20日	コロナ禍での発表会は「公開稽古」として狂言堂で「土蜘蛛」自主公演（**写真5**）
	令和5年（2023）3月18日	コロナ禍での特別公演として狂言堂で「橋弁慶」「土蜘蛛」自主公演
	令和6年（2024）3月23日	嵯峨狂言の基本所作と「蟹殿」を狂言堂で公演
	令和7年（2025）1月11日	右京ふれあい文化会館ホールで「新春、まるごと！嵯峨大念佛狂言」保存会結成50周年事業　「基本所作の体験」に狂言クラブ出演

写真3

写真4

写真5

嵯峨大念佛狂言

まめちしき

嵯峨大念佛狂言とは？

壬生・ゑんま堂と並び、京の三大念佛狂言の一つとして、国の「重要無形民俗文化財」に指定されています。鎌倉時代に円覚上人というお坊さんが融通念佛を広める方法として、仏教の教えをわかりやすく劇にして見せたのが始まりと伝えられています。以来約700年間、嵯峨の里で親から子、子から孫へと伝えられてきました。この念佛狂言の特徴は演者全員が面を付け、当時は限られた人しか字が読めなかったので、無言劇です。さて続きは「嵯峨大念佛狂言とは」10ページを一読してください。

嵯峨狂言クラブの思い出

I　期

昭和63年　平成12年

1988 — 2000

元クラブ員対象

①御年齢　②出身小学校　③最も印象が深い演目・役柄

狂言クラブの子どもたちへ（1992年作成）

故 中村善一郎（指導者）

静かな狂言

単調な狂言

ワクワクする狂言

ドキドキする狂言

昔の人と交わえる狂言

今の人に伝える狂言

君の体に昔の人がそっとしのびよって

七百年前の人がそっときみに近づいて

永く、もっと永く生きるために

きみの心に宿をとりにくる

2002（平成14）年　夢窓幼稚園「蟹殿」発表メンバーと筆者（前列左端）

狂言堂北の鐘楼前遊具（現在は撤去）で1990（平成2）年のクラブ員と筆者（右端）

きみの手が、きみの足が自然に動くようになったとき

きみが七百年前の人と同じになったとき

きみは立派なチビッコ狂言師

昔の人がきみを見て

七百年前の人がきみを見て

きっと、きっと

大きな拍手を送るだろう

（2011年4月8日逝去）

狂言堂春季公演で挨拶する筆者
（2009年）

「嵯峨大念佛狂言」を小学生に教える

小泉 順邦

「嵯峨大念佛狂言（以下、嵯峨狂言）の魅力は何ですか？」と人に聞かれる。私にはわかりませんが、土曜日の夜になると清涼寺境内の狂言堂へ行ってしまう。その時に故松本末三さん、故池田新太郎さん、故上田清吉さんの昔話を聞くのが楽しかった。皆さん温まった味のある方で、これが「母処思想」だと思えた。長老たちは、子供のころガンデンデン音が聞こえてくると「ぼうしょへ行こう」と狂言堂へ行き「竹筒に入ったウイロウを食べながら狂言を見たものだ」と話してくれました。来る者は温かく迎え、去る者には楽しい思い出を与える。そしてまた見に来たくなる。それが「母処思想」の神髄であろう。

昭和63（1988）年に故中村善一郎さんと嵯峨狂言保存会の故松井会長、嵯峨小学校の山本叔江校長が私に「子供狂言を始めたいので手伝ってほしい」という依頼で土曜日に嵯峨小学校へ行った。嵯峨・広沢・嵐山小学校の子供たちが25人ほど体育館に集まっていた。

私が、最初子供たちに教えたのは、挨拶、集合時間に遅れない、整列を素早くする、道具の後片付け、忘れ物を無くす等であった。これをやかましく言うことによって彼らの統制が取れてきた。また、遊び時間と稽古時間がしっかりと区別できるようになった。できなかった時は、大声で怒鳴ったりもした。

芸のほうは、世阿弥の「風姿花伝」に云われているように、彼らの心のままにさせていた。

衣裳を着け、面を付ければかわいらしく、芸は二の次でよいと考えていた。私はあまり狂言の経験がなかったので、歩き方、面の合わせ方、めん棒の使用法の基本を教え、後はやかましく言わなかった。稽古の最初にはビデオテープで筋書きを教えた。彼らは一度見たら二度見ずとも筋書きを覚えていた。最初に稽古をしたのは、男子は「蟹殿」「餓鬼角力」、女子は「大原女」「蟹殿」であった。鉦・太鼓も沢井君と遠藤さんが上手にやってくれた。

写真1
狂言クラブ1期生
左上端：筆者
右上端：故中村善一郎氏
（1988年10月）

子供たちは、各演目に一生懸命取り組み、かわいらしさも相まって大好評であった。「小泉さん、僕の芸を見てお客さんが笑ってくれた」とか「大原女の踊りは、難しかったけど上手にできた」と報告もしてくれた。

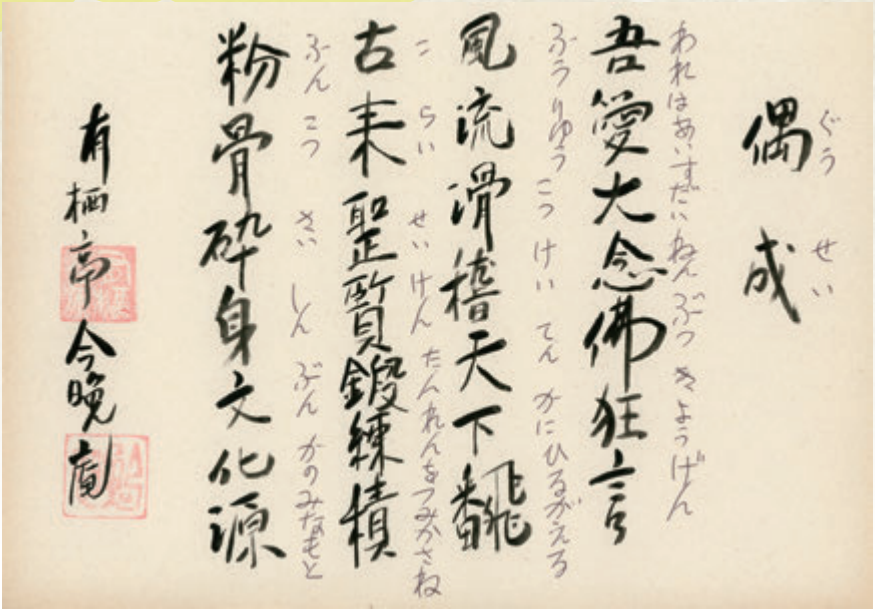
遊び時間は、狂言堂では綱の上り方、飛び込み降り等して遊んだ。狂言のない時間には、焼き肉パーティ、レンゲ摘みにも行った。何でも本物を見せたいという私の願望で、狂言クラブ研修会として、お釈迦さまも御開帳していただき、清凉寺本堂の内陣奥まで見学し、釈迦堂の濡れ縁では、山門のところにいる人に声が届くか実験し、届かぬことを教え、無言劇になった理由も学ばせた。愛宕念仏寺では、蓮華蔵世界の話を聞き、東大寺、奈良国立博物館、百万のお墓へも連れて行った。下嵯峨の「貝合わせ」で有名な曇華院（写真２）では、子供たちは「地獄極楽双六」に興味を示した。また神泉苑狂言も見学に行った。加納さんのお世話で西京区大原野古墳群の発掘調査現場にも行き古墳石室内から出土した「金環」に大興奮もした。山本校長先生は、子供たちに狂言の文集（写真３）を作らせた。それを読んで私たちは感動し、自信を深めた。その後、子供たちは保存会の公演で「餓鬼角力」の餓鬼役や「土蜘蛛」の太刀持ち役などして手伝った。こうして狂言クラブに三年かかわった。

写真2
曇華院門前（1989年11月）

写真3
文集「はじめての嵯峨狂言」

「偶成」

小西小三郎（嵯峨大念佛狂言保存会長老）御年92才



公演終了の切口上を行う筆者
保存会秋季公演（2024年10月）

子供に演技指導をする筆者（右端）
（2008年7月）

小西 小三郎（顧問）

嵯峨狂言クラブの思い出

村上 恵梨（旧姓：清原）

もうかれこれ30年ちかく経とうとしています。現在、私は４人の子供の母で、向日市に住んでいます。小学校１年生の時に友人田中（旧姓加納）小弥子さんの誘いで狂言クラブに入りました。思い出に残る演目としては

①「釈迦如来」私は美しい母親の役だったと思います。コミカルな動き？と面白いストーリーで観客にはうけていました。

②「土蜘蛛」蜘蛛の巣を両手でぱーっと放つところや蜘蛛を追いかけて、舞台から飛込に飛び降りるところや立ち廻りで蜘蛛の首を獲るところなどは子供心にドッキリしました。

③「紅葉狩り」何度も何度も盃を洗うところを稽古していた記憶があります。お面をつけるのと身振り手振りで話すので、少々間違えても大丈夫（？）みたいな変な安心感があり、あまり緊張せずに舞台に立てました。（下の写真、筆者は右端から二番目）

狂言クラブ秋季公演「蟹殿」出演メンバー
筆者：右から二番目
狂言堂（1999年11月）

狂言堂での思い出もたくさんあります。清涼寺境内の狂言堂はとても古く少し怖かった。中でも狂言のお面がずらりと並んだ様子は強烈で、弟（当時５才）は最初、泣いて近寄りませんでした。木戸を開けると大量のカメムシがいてビックリ。冬は凍えるほど寒く、ストーブの上でポテトチップスを焼いて皆で食べて美味しかった。夏休みもせっせっと通い、当時はめずらしかったパソコンで、皆でゲームをして遊びました。長い間、忘れていましたが、楽しかった思い出が次々と蘇ります。言葉は少なかったですが、やさしく、いちから教えてくださった故中村先生。公私にわたりお世話になった加納さんご家族、着付けしてくださったおばあちゃん、小西さんはじめたくさんの方々に育てていただき、心から感謝しています。これからも嵯峨大念佛狂言が子供たちに繋がり続けていくことを、心よりお祈りいたします。

①37歳　②嵯峨小学校　③「釈迦如来」：母親

4才から嵯峨狂言にかかわって今！

橘　隆仁

嵯峨狂言クラブ（以下、狂言クラブ）は、その時の嵯峨大念佛狂言（以下、嵯峨狂言）保存会会長の故松井秀夫氏の下に故中村善一郎氏（以下、中村先生）と小泉順邦氏（以下、小泉先生）の両先生指導ではじまりました。私は10才（当時小学校４年生）の時に入部し、それから36年の月日が経ち、みなさんの理解・協力のもと、今現在も狂言活動を継続しています。

最初の頃は嵯峨小学校の協力で体育館に、毎週土曜日午前中までの授業が終わってから、長椅子で狂言堂舞台に模して壇上・下に各1セット作り、男子と女子に分かれて（各10名ほど）稽古をしていました。

中村先生は女子の担当で、小泉先生は男子が担当でした。稽古の内容としては特に男子には厳しく、今では考えられない、できない指導方法でした。男子は「なにくそ精神」で時には泣きながら稽古をしていました。今だから思うことは、その指導は先生が本気で私たちと向き合ってくれていたことだと思います。

私が狂言クラブに入ったきっかけは、４才の頃（自分の記憶は曖昧、母親曰く）から、嵯峨大念佛狂言保存会（以下、保存会）に在籍していたそうで、狂言クラブ発足の際に故中村先生、小

嵐山紅葉祭りで土蜘蛛を演じる筆者
（2008年11月）

①46歳　②嵯峨小学校　③「餓鬼角力」：赤鬼

狂言クラブに入部したころの筆者（右側）
狂言堂（1988年）

泉先生から「お前もクラブに入って一緒に手伝ってくれ」と言われ入りました。狂言クラブの活動期間は約３年です。クラブ在籍中に演じた役は憶えているのは「餓鬼角力」の赤鬼、「蟹殿」の子蟹（後シテ）そして「釈迦如来」の寺侍かなと思います。これらの三役は後に保存会でも演じることになり、とても良い経験となりました。

小学校６年生の時に自身のくだらない理由で一度辞めようと考えたことがありました。その際、中村先生、小泉先生に説得され、続けることになり現在に至ります。現在、保存会及び、狂言クラブ両方の演技指導兼演者として携わっています。狂言クラブの指導者になるきっかけは25才の時に中村先生から「狂言堂で子供たちに土蜘蛛を教えているから助けてほしい」とお声がかかり参加するようになりました。まさか自分が在籍していた狂言クラブの指導者になるとはこの時は思いませんでした。

現在、指導者になり思うことは、その時々のOG・OBの子達が保存会にかかわってくれることです。狂言クラブでの経験をそのまま保存会で活かしてくれるので、とても大きな力になっています。その繋がりで保護者の方々も協力してもらっています。保護者の中には子供の狂言クラブ入部をきっかけに、自身が演者としてかかわるようになったことや、また公演の時は裏方として手伝っていただいたりと狂言クラブの影響力の凄さを感じています。一度辞めようとして両先生に説得してもらい、今日まで続けてこられたことは、自身の財産ともなりました。両先生には感謝の気持ちしかありません。これからは恩返しの意味も込め、引き続き微力ながら嵯峨狂言の力になれるように携わっていこうと思います。

（現在、保存会・狂言クラブ指導方）

土蜘蛛の衣装の筆者
（2008年11月）

伝統文化の普及・継承を高校生に

加納 友矢

保存会春季公演「土蜘蛛」で保昌役を演じる筆者（左手前）
狂言堂（2010年4月）

狂言クラブで体験し印象に残った演目は「土蜘蛛」で、その時の自身の役柄は平井保昌でした。その後、嵯峨大念佛狂言保存会（以下、保存会）の定期公演（春季・秋季・お松明）などに出演させていただき、今でも保存会との繋がりは継続しています。

現在は府立北嵯峨高校で教諭として勤務しています。保存会の皆さんには本校の「総合学習」授業などで定期的にフィールドワークとして清涼寺境内や狂言堂見学・狂言体験などに行かせてもらうなど、日ごろから本校の教育活動に多大な協力をいただいています。

これからも嵯峨地域に保存・継承されている嵯峨大念佛狂言の魅力を高校生らに伝える機会を設けるなど、狂言クラブ出身として、自分自身も含め嵯峨狂言をはじめ、伝統文化の普及・継承活動を主体的に進めていければと考えています。

狂言クラブ創設36周年おめでとうございます!!

授業で「土蜘蛛」保昌の演技を通し嵯峨狂言の魅力を高校生に伝える筆者（右端）
北嵯峨高校「総合学習授業」　狂言堂舞台（2021年11月）

①39歳　②嵯峨小学校　③「土蜘蛛」：保昌

舞台の経験が生かされて

田中小弥子（旧姓：加納）

お面を付けると視界が狭くなるのですが、その役に集中できる感覚が好きでした。また、稽古の待ち時間などは当時では珍しかった大きなパソコンゲームができるのが楽しかったことを覚えています。

中・高校から大学にかけてはクラッシックバレエに専念していましたが、バレエでの発表会では、何回も稽古を重ねた後の本番での狂言堂舞台の経験が生かされたと思います。

現在は結婚し夫の仕事の関係で、京都からは遠く埼玉県・和光市で娘二人（小学生と幼児）の子育て真最中です。京都に住んでいたら娘たちを狂言クラブに通わすのにと思う今日この頃です。

私の年齢と同じ36才の狂言クラブ創設36周年おめでとうございます!!

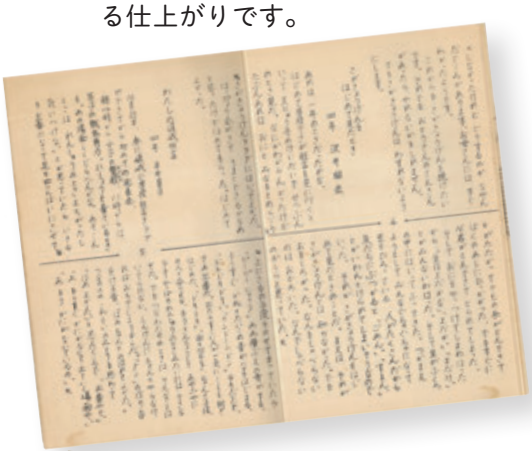
狂言クラブ秋季公演
「蟹殿」出演で自己紹介する筆者（中央）
狂言堂（1999年11月）

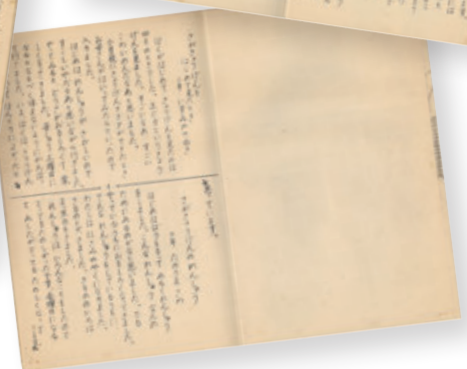
①36歳　②嵯峨小学校　③「愛宕詣」：供

会報誌図書館 Ⅰ期

嵯峨狂言クラブでは発足以来、様々な会報誌を発行してきました。
Ⅰ期は、子ども達に執筆してもらった原稿を手書きで清書し、コピーしたワラ半紙をホッチキスで綴じたものでした。手作りのぬくもりあふれる仕上がりです。

「はじめての嵯峨狂言」昭和63年（1988年）作成





京都府少年補導協会発行の「補導だより」の巻頭グラフページを飾りました。

京都府少年補導協会「補導だより」
平成4年（1992年）

嵯峨大念佛狂言

まめちしき

愛宕詣

嵯峨狂言の演目に「愛宕詣」があります。愛宕山は狂言堂舞台から西北に望めます。お詣りの場面ではその方向に手を合わせ拝礼します。またカワラケ（土で焼かれたお皿）投げの場面もある。カワラケ投げとは愛宕山中腹の茶屋で行われていた厄払いです。現在、公演では直径約６センチの紙製のカワラケを舞台から客席に投げ、受けとった人には、カワラケと交換しています。

カワラケ

嵯峨狂言クラブの思い出

Ⅱ　期

平成13年　平成26年

2001 — 2014

元クラブ員対象

①御年齢　②出身小学校　③最も印象が深い演目・役柄

身体で「伝える」「魅せる」

５才あたりの頃に保存会の公演で「餓鬼角力」の餓鬼役デビューからの狂言クラブへの参加でした。いろんな役の所作体験など伝統文化に触れ、経験させていただいたことに感謝しています。

私自身は難聴のため、目でしっかり見て真似て体現することは幼いころから好きでした。着物を着て刀や扇子を使うのは、日常とはまた違う感覚で面白く歴史を学んでいるようで楽しかった。

稽古をしていくうちに役や演目の流れをつかみ、発表会の日が近づいてくると楽しみでした。狂言クラブの発表会の会場は、実家でもある夢窓幼稚園のホールだったので、身近な方々にも見てもらえることもあり、初めての時は面をはずして、最後のあいさつの際は緊張したのを覚えています。釈迦堂清涼寺の狂言堂舞台とはまた違う雰囲気で、面から見えるお客さんが近くにいるのも不思議でした。幼稚園での発表会では始まる前に「頑張ろなぁ」と、皆で言い合いしていた気がするのも思い出です。

稽古の休憩時や稽古後に、鐘楼の下で田んぼの田遊びや、バレーボールしたり、冬は丸ストーブを囲んで話したりしていたのも印象に残っています。

身体全体で何かを「伝える」「魅せる」ことが楽しくでき、子供の時に嵯峨狂言に関われて良かったと、また今かかわっているダンスに活かすこともでき嬉しく思っています。東京ではダンサーとして活動し、東京パラリンピックのオープニングでの出演や様々なアーティストの方々とかかわることができました。今は病気を患ったため、実家の夢窓幼稚園に帰り、幼稚園の保育活動に関わらせていただいております。

今後、嵯峨狂言クラブが、さらに楽しく繋がっていくことを願っています。

「舟弁慶」水夫役を演じた時の筆者（2005年11月）

升光 玄太

①31歳　②常磐野小学校　③「蟹殿」：子蟹

私と家族と狂言と

高尾　美穂（保護者）

囃子・笛方の衣装の筆者（2022年3月）

20年程前、次男の幼稚園の役員同士だった中川登志子さんが「今、男の子少ないから健ちゃんどう？」と声をかけてくれました。でも健蔵が興味を示さずそのまま二年が過ぎ、今度は小学校で同級生の山本稔里君が「僕も狂言やってるからおいでよ。」と誘ってくれ、これが嵯峨狂言への入口となりました。見学に行くと部員はほんの数名、当時保存会会長の故中村さんをはじめ、小西さん、加納さん、橘さんが所作を優しく指導していて、穏やかな時間が流れていました。健蔵は築約100年の狂言堂で遊ぶ休み時間に魅了されたのか、「僕、狂言やりたい！」と即入会しました。嬉々として狂言堂へ通う弟を見て兄の雄一郎も「中学に入ったら狂言がしたい」と一年後に入会、その後雄一郎が仲良しの北川拓歩君を、拓歩君は弟の周歩君を誘ったので男の子が増え、稽古も活気づいていきました。

平成20年には、当時常磐野小のPTA会長だった夫の発案で子供狂言の公演を開催し、小４の健蔵が土蜘蛛を演じました。その時、橘さんに依頼されたのが私の「公演パンフレット作り」の始まりです。ワープロに写真の切り貼りという稚拙なものでしたが、「愛宕詣」の演目用に折紙のかわらけを、お土産用には「綱」や「弁慶」の紙のお面を作る等、自分なりの工夫で７年間担当しました。息子達が大人狂言に出演している頃、私は囃子・笛方としても活動させて頂きましたが、基本的には「何でも屋」でしたので、紙粘土で「猿」の面のレプリカ作成や、（主人の助けを借りて）演目のあらすじの英訳、着物を着て英語のアナウンス等、依頼されるままにいろいろさせて頂いた事が懐かしいです。夫も一度だけ、人が足りなくて通行人役で出演しました。こうして家族全員で狂言に関わった日々も息子達の成長に伴い機会が減り、二人が東京へ巣立った今は私一人が細々と関わるだけなのはとても残念です。でも、これも多くの家族同様自然な流れかもしれません。私にとって保存会と狂言クラブは様々な人が集う貴重な交流の場であり、家族を育んでくれた大切な場所です。どのような形であれ、これからも自分のできることで嵯峨狂言のバトンを繋いでいけたら幸いです。

「土蜘蛛」の太刀持ちをまかされて

福永 真奈（旧姓：中川）

狂言クラブ発表会「蟹殿」稽古（後列右端が筆者）
（2008年2月）

小学校６年間、嵯峨狂言クラブでお世話になりました。二年の時「土蜘蛛」の太刀持ちの役を演じた時のことが一番印象に残っています。舞台の前方にいる時間が長いのですが、後ろが見られないため、頭の中で「今、二番目の人がお酒を飲んでいるくらいかな」と考えながら、耳を凝らしていたのを覚えています（結局、本番で失敗しましたが）。私が通っていた嵯峨小学校での発表会もあり、客席から友達が手を振ってくれていたことも思い出の一つです。

今年で26才になりました。嵯峨狂言クラブを卒業してから約15年が経ちました。小学校の時に重要無形文化財の嵯峨狂言を演じていたなんて、普通はできない貴重な体験だったなと今思えば改めて感じます。昨年、入籍し嵯峨から少し遠くへ引っ越してしまいましたが、帰省した際には母から公演があると聞いた時は、こっそり見に行ったりしています。

６年間貴重な体験をさせていただきありがとうございました。今後の狂言クラブの活躍を期待しています。

「蟹殿」の臼役
（2008年）

①26歳　②嵯峨小学校　③「土蜘蛛」：太刀持ち

頼光の衣装の筆者（2010年3月）

大切にしている言葉

幼稚園友達の真奈ちゃん、小学校同級生の稔里君という二人の友達から誘いを受け、小３の夏に不思議なご縁で狂言クラブの一員となりました。

初めて稽古に参加した日の記憶は鮮明で、当時の会長、善さんの背に乗り子猿を演じました。その後は「釈迦如来」の娘や「土蜘蛛」の蜘蛛など大きな役を頂けるようになり、狂言堂での公演には学校の友達や担任の先生も見に来てくれて、狂言を通じて自身の世界が大きく広がっていくのを感じていました。当時は伝統芸能の趣きなど理解できる歳ではありませんでしたが、今思えば嵯峨狂言の持つ独特な迫力、そして時折顔を見せるユーモアに、老若男女を引きつける魅力があったのだと思います。

実際、保存会には様々な世代・業界の方が集っており、そうした方々と話すことも幼い自分にとって大きな刺激でした。高校、大学と私生活が忙しくなっても、顔を出す度に保存会の方々は温かく歓迎して下さり、「大きくなったな」と喜んでくれました。少年時代は変化や葛藤が多いものですが、その中で保存会が変わらず続いていることに大変勇気づけられておりました。

今、私の部屋には狂言クラブの卒業祝いに頂いた色紙が飾られています。そこに書かれているのは、14年間私を励ましてきた、小西さんからの有難い言葉、『情けは人の為ならず　巡り巡って吾が身のため』。今年、京都を離れましたがこうしてメッセージを寄せる機会を頂けて懐かしい想いに浸ることができました。いつの日かお世話になった嵯峨狂言に貢献できたらと思います。保存会と狂言クラブがこれからも人々に笑顔を届け、末永く和気藹々と活動を続けていくことを願っております。

「土蜘蛛」の登場シーンを稽古する筆者（2008年7月）

高尾　健蔵

①26歳　②常磐野小学校　③「土蜘蛛」：蜘蛛

原点のような場所

髙尾 雄一郎

ご無沙汰しております。私が大学進学に伴い京都を離れ、東京での生活を始めてから、早いもので10年ほどが経ちました。今ではすっかり都会の暮らしに馴染んでいますが、今回の執筆依頼をいただいて、ふしぎと郷愁に駆られることなく、まるでつい最近まで清涼寺の狂言堂にいたかのような親しみを感じながら、この原稿を書いています。

子供狂言クラブと出会ったのは、私が常盤野小学校6年生のときでした。思春期を少し早く迎え、学校に通ったり通わなかったりと、不安定な状況にあった頃のことです。そんな私を見かねて、母親が狂言クラブを紹介してくれたのが入部のきっかけでした。同じ年齢の子どもたちだけで構成される学校生活に窮屈さを感じていた私にとって、幼稚園生から年配の師匠まで、幅広い世代の方々が一緒に活動に励んでいる狂言クラブの雰囲気は衝撃的で、それまでに感じたことのない居心地の良さに浸っていたことを今でも覚えています。

特に印象に残っている演目は、やはり「土蜘蛛」でしょう。勇ましい武将が悪者を退治するという王道のストーリーに、少年

公演終了後の自己紹介（筆者：右から二人目）
狂言堂（2009年11月）

①28歳　②常盤野小学校　③「土蜘蛛」：保昌

「羅生門」で保昌を演じる筆者（左）と頼光役の弟、健蔵（右）
狂言堂（2009年11月）

だった私の心は大いに惹きつけられました。私が演者の機会をいただいたときは、ほぼ同時期に入会した幼馴染の北川拓歩くんが綱役を、私は保昌役を務めました。普段は気軽な遊び仲間であった彼と、真剣に稽古に励んだ日々が良い思い出です。大人用の着物の丈が余りながらも、保昌のお面をつけ、ずっしりとした刀を携えて憧れの武将になりきったとき、周囲の友だちより少し大人になったような気分でした。

今は28歳になり、東京で暮らしているため、保存会の皆さまと直接お会いする機会は少なくなってしまいました。しかし、折に触れてここでの活動を思い出し、いつでもふらっと帰れる場所のように感じています。私にとってここは原点ともいえる場所です。これからも嵯峨狂言の伝統文化、そして狂言クラブという貴重なコミュニティが末永く受け継がれていくことを、陰ながらお祈り申し上げます。

「土蜘蛛」の保昌役を稽古する筆者
狂言堂（2008年7月）

狂言クラブから学んだこと

北川 拓歩

写真1
「土蜘蛛」の綱役を稽古する
筆者（右端）
狂言堂（2008年7月）

ご無沙汰しております。月日が流れるのは早いもので、私も29歳になりました。

私は常磐野小学校出身で、嵯峨から少し離れた太秦の生まれです。小学校６年生のとき、当時同じマンションに住んでいて普段からよく遊んでいた髙尾雄一郎くんから誘いを受け、嵯峨狂言クラブに入ることになりました。当然狂言というものに初めて触れましたし、大学生になるまで続けることなど想像もしておりませんでした。

たくさんの演目に出演させていただきました。「羅生門」、「船弁慶」、「愛宕詣」、「蟹殿」…。そのなかでも印象に残っている演目は「土蜘蛛」です。太刀持、綱、蜘蛛と、同演目で様々な役を演じさせてもらいました。特に綱は子ども狂言時代に舞台で初めて演じた役です。カタモンの演目であったために、堂々と振る舞う綱の役柄を演じきるには子どもの私には難しかったです。稽古の際に小西先生から一喝を受けたことがありました。的を射た指摘であったために、たくさんの子どもたちの中で静かに悔し涙を流しました。そのあと保昌役の髙尾くんに声をかけ、休憩も忘れて稽古を続けていた（写真1）ことを今でも覚えています。また、土蜘蛛役は大きくなってからいただいた役です。橘先生がずっと演じてこられた役を私がやることに戸惑う気持ちを持ちながらも、戦いのシーンや蜘蛛の糸の投げ方などこだわって稽古をした記憶があります。様々な役柄を演じ、それぞれの目線から見ることのできた「土蜘蛛」という演目は私にとって一番印象に残る演目です。

①29歳　②常盤野小学校　③「土蜘蛛」：綱

「羅生門」で綱役を演じる筆者（右手前）
狂言堂（2009年11月）

現在私は、京都府の高校教員として子どもたちの前で教鞭をとる立場になっております。学校の先生になるのは小さい頃からの夢でした。数学を教えたり、担任として生徒たちの進路実現に携わったりしています。私はもともと人前に立つことが苦手でしたが、狂言に出会って自らを見せる技術を学びました。また、橘先生が私たちに親身になって教える様子を見て育ってきましたので、その姿は私が理想とする教員像の一部となっております。今や狂言から離れてしまいましたが、嵯峨狂言から学んだことは今でも私の心の中に生きております。

今回、執筆依頼をいただいたとき、私が嵯峨狂言クラブを離れた後も変わらず稽古が続けられていることを知り、うれしく思いました。狂言の魅力を子どもたちが受け継ぎ、また次の世代へと伝えていく。そうして今後とも本クラブが続いていくことを陰ながら願っております。

「土蜘蛛」の綱の衣装の筆者（右端）と太刀持ち役の弟、周歩（左端）
常磐野小学校（2008年9月）

夢窓幼稚園が狂言クラブ発表の場として

升光 泰雄（夢窓幼稚園園長）

一人ひとりの人生が、それぞれのかけがえのない1回限りのドラマシアターであるとするなら、そこに劇中劇のような特別な舞台体験の時間を持てるということは、とても幸せなことだと思います。

何故なら、連綿と続くマイドラマの中で、時折自分の人生とは別の者として異なる体験を生きる瞬間があることによって、自らの人生の可能性をいかようにでも拡げることができるのだ！という予感を持つことができるからです。

そのような体験を通して"他者と共によろこびの時をつむごう"とする「ユーモア」という日常的でもあり、また高遠な精神性も醸し出されてくる気がします。

なかなか魅力的な「36」という数字の周年を祝して、ちょっぴり大袈裟な表現になってしまいましたが、そんな意味からも、実際に子どもたちが狂言に立ち合い、作品を仕上げ、舞台に立つということは、人生を貫いた宝ものようなな体験を得ているということなのでしょう。

まことに すこぶる これ以上ない めでたいことだと、思います。

夢窓幼稚園発表会で挨拶する筆者（右）
（2010年3月）

「紅葉狩」で侍女役を演じる筆者
狂言堂（2009年10月）

息子も私も狂言の舞台に立たせていただいたことをきっかけに、その歴史の中で10年程 夢窓幼稚園のホールを クラブの発表の場として下さったことは大きなよろこびであり、在園・卒園の子どもたちが多数狂言の魅力を体験する機会を与えて下さったのでした。

面の小さな視界から流れ込み、限りなく広がっていく 時を超えたのびやか 素朴でありながら、ゆたかで いのちあふれる響きや風景を仲間と共に味わうことのできる魅惑の場が、先達である先輩達の導きにより 36年続けられてきたことを心よりの感謝と共に お慶びお祝い申し上げます。

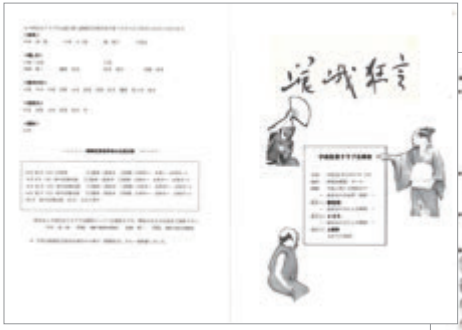
弁光 泰雄

会報誌 図書館 Ⅱ期

Ⅱ期の会報誌は、保護者の高尾美穂さんの手による公演の解説やキャストの紹介が入るなど本格的な作りです。写真や子ども達のイラストもレイアウトされ、にぎやかな印象。そして特筆すべきは、なんと「付録付き」の号があったことです！

平成20年（2008年）9月発行

折り紙で作った「かわらけ」付き！



平成21年（2009年）3月発行

豪華付録！「綱」の面

平成22年（2010年）3月発行

平成23年（2011年）3月発行

「弁慶」の面が
もらえる！

平成24年（2012年）3月発行

平成25年（2013年）3月発行

平成26年（2014年）3月発行

嵯峨大念佛狂言

まめちしき

嵯峨狂言独自の演目に「釈迦如来」があります。清涼寺本堂には本尊として国宝の木造釈迦如来立像があります。この釈迦如来は平安時代中期に東大寺僧奝然（ちょうねん）が中国から帰朝する際に持ち帰った像で、釈迦生前の姿を写した霊像として信仰を集め、鎌倉時代には全国に摸刻像が流行しました。この釈迦如来をモデルに「お釈迦さまも人間だった」という内容の狂言が「釈迦如来」です。是非とも一度は観劇してください。

「釈迦如来」
真中がお釈迦様

嵯峨狂言クラブの思い出

Ⅲ　期

平成27年　令和６年

2015 ― 2024

元クラブ員対象

①御年齢　②出身小学校　③最も印象が深い演目・役柄

稽古中は日々「鍛錬」

松井 銀司

小さい頃からお爺さんと嵯峨大念佛狂言を見に行っていて、小学校3年生の時に直接触れることが出来た体験授業では、面付け体験や飛び込み、模範演技を見せて頂きました。

面付け体験では、視界がかなり悪く、これで演技している驚き、そして立ち回り等の限られた視野で刀を合わせる場面を想像してとても驚きました。飛び込みでは、お面をつけていてかなりの高さがある所から飛び込むという凄さを知りました。体験授業中に現松井会長から声をかけて頂き実際に舞台に立ってみないかと言われ、嵯峨大念佛狂言にかかわるきっかけになりました。狂言クラブに参加して初めての配役は、「花盗人」の通行人でした。

参加して基礎もまだの状態で夢窓幼稚園での発表会に出させて頂いたことは今でも思い出に残っています。小学校6年生になったタイミングで保存会の公演にも出させて頂き、「紅葉狩」の従者や、「橋弁慶」の牛若丸、「土蜘蛛」の太刀持ちなどの役を頂き、稽古に燃えていました。中学校に進学し、部活動には参加せず、嵯峨大念佛狂言一筋で稽古に参加していました。中学生になってから、自分の中では大役である「土蜘蛛」の保昌や、「羅生門」の保昌の稽古を進めていき、最初は慣れてない役で沢山指導して頂きましたが、気の緩みや集中力の無さで怒られたこともあります。今ではその怒られたことがあるから今の演技力に繋がっていると心から感じております。

中学卒業以降は、自分からこの配役をやってみたいなどの意見も言えるようになり、「土蜘蛛」の保昌や、「船弁慶」の弁慶、ヤワラカモンだと「とろろ」の供、「釈迦如来」の寺侍を演じさせて頂いてます。自分の中ではこんな役まで頂いていいのかなど思ってしまう事もありますが、全力で頑張っています。直近の稽古では今まで触れた事のない役もあるので、先輩方に恥じぬよう全力で稽古を進めます。稽古中は日々「鍛錬」と心に誓い、辛くなっても心を燃やし先輩方に負けぬよう頑張ろうと思っています。

（現在、保存会会員）

狂言クラブ発表会「紅葉狩」（筆者は前列左端）
夢窓幼稚園ホール（2014年3月）

①20歳　②嵯峨小学校　③「橋弁慶」：牛若丸

「杏ちゃんなら大丈夫！」

小松 杏

夢窓幼稚園を卒園して常磐野小学校に入学する春に初めて狂言堂での春季公演を見に行きました。そこで小学校で同じクラスになった一人の女の子と出会い、一緒に夢中になって見ていたら、その時に狂言クラブに誘っていただいたのがきっかけだと、母から聞きました。

狂言クラブ発表会「紅葉狩」（筆者は左端）
夢窓幼稚園ホール（2014年3月）

小２から稽古に参加すると高学年のお姉さんやお兄さん、私よりもっと小さな子どもたちもいて、みんなで狂言を稽古する時間と、合間のザリガニ獲りなどの遊び時間が、本当に楽しくてどちらも全力！でした。特に印象に残っている演目は小４の時に「蟹殿」で演じた子猿の役でした。子猿になりきって舞台上に設置してある綱に上って、親猿が子猿の蚤を採る場面や、初めての公演での緊張感もとても印象に残っています。小６の頃は狂言堂大修理中だったので、仮設プレハブのお稽古場での稽古は隠れ家のようで、今思えば貴重な体験でした。その年の公演は夢窓幼稚園ホールで、演目は「蟹殿」に出演しました。幼稚園では子蟹と大きくなった子蟹の役も嵯峨狂言では通常しない、二役を演じました。その時期、私はバスケットボールチームにも入部していたので、週末は遠征や試合などで狂言の稽古には参加できないことが多く、公演前には何とか時間を作り稽古に参加し、「杏ちゃんなら大丈夫！」と橘先生から背中を押してもらい、何とか年一度の狂言クラブ発表会の舞台に立つことができ、感謝の気持ちでいっぱいでした。現在、私は18才の大学１年生です。夢中になって初めて嵯峨狂言を見ていたのは12年前です。昨年、若葉会（今年、結成された狂言クラブ出身者の中・高校生女子が中心の会）に加入しました。本年の嵯峨狂言の春季公演前に「釈迦如来」の母親役で若葉会としてデビューしました。久しぶりに面を付けて舞台に立つと周りの見えなさや、観客の前に立つ緊張感で不安でしたが、演目が始まると狂言クラブの頃と同じように自然と体が動き出し、楽しんで公演を終えることができました。小さい頃に出会った嵯峨狂言に今もこのようにかかわることができて嬉しく思います。狂言クラブ設立36周年おめでとうございます。たくさんの出会いやエピソードが満載の36年！これからのちびっ子たちの活躍を心より楽しみにしています。

（現在、若葉会会員）

①18歳　②常磐野小学校　③「蟹殿」：子猿

女性でも舞台に立てるよう

「船弁慶」狂言クラブ発表会
狂言堂（2022年3月）

松本 紗奈

15歳、嵯峨小出身の松本紗奈です。嵯峨狂言クラブに入ったのは3歳のときでした。当時、私は母と春の公演を見に来ていました。どれもとても興味深かったのですが、特に最後の「餓鬼角力」で餓鬼役に子供が出ているのをみて、「子供もできるんだ、私もやってみたいな」と思うようになりました。いざ入ってみると自分より大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんが沢山いてとても緊張しましたが、みんなが可愛がってくれて優しい人達ばかりで私のお気に入りの場所になりました。しばらくして、本番に出ることになって、私は通行人役で出演させてもらいました。お客さんがみている中で面をつけて着物も着て歩くのは、短い距離だったけれど、とても緊張しました。それから8年ほどたった6年の時「船弁慶」に出ました。私が一番心に残っている卒業する前の最後の演目です。源義経の役を演じました。そ

①15歳　②嵯峨小学校　③「船弁慶」：義経

れまではあまりセリフがない役ばかり演じていましたが、この時は家来や静に対して指示することが沢山ありました。そして、船に乗る場面では、飛び乗った後に船の揺れを表現するために体を左右に揺らし、戦いでは亡霊をじりじりと攻める所に力を入れました。

狂言クラブでは小学6年までで卒部で、まだ狂言に関わりたかった私は保存会の囃しの笛方でお世話になることになりました。しかし、笛も演技もやってみたいと思うようになり、中学2年の冬に元狂言クラブのOBやOGを集めて、中学生以上の女子が中心の「若葉会」を結成しました。毎週日曜の夕方にみんなで集まり、稽古して、初の公演を保存会の春季公演の前座として自主公演のかたちでやりました。演目は「釈迦如来」です。私は坊主の役を演じました。久しぶりに演じてとても緊張しましたが、それぞれが自分の役をやりきれて、みんなから「よかったよ」と言ってもらえて嬉しかったです。これからも活動を続けて女の人が舞台に立てるようにめざしていきたいです。

（現在、若葉会代表）

保存会春公演で笛を演奏（手前が筆者）
狂言堂（2024年4月）

「大原女」狂言クラブ発表会
（2019年2月）

これからは「若葉会」で演者として

爲季 なぎ

私は3歳のころから嵯峨狂言クラブに参加させていただきました。

私が、演じている中で一番好きな瞬間は役になりきっていると感じられるときです。嵯峨狂言は無言劇です。ですから演者は、お客さんに対してキャラクターの性格などを動きだけで伝えなくてはなりません。豪快なキャラクターなら動きを大きく、繊細なキャラクターなら細かな動きを大切にする、など役に合わせて演じ分ける方法を教えてもらいました。その教えを元にこの役ならこんな風に動くのでは、と考えて自分の役を演じます。稽古してそのキャラクターの表現の仕方を理解していくうちに、自分が役になりきっていると実感することができました。特に、役になりきる楽しさ、そして大切さを学んだのは「釈迦如来」という演目からです。美しい母親とお多福娘がお釈迦様を拝みに寺を訪ねる話です。母親がお参りするとお釈迦様はうれしそうに「ガッテン、ガッテン」と動き、娘がお参りするとお釈迦様はプイと後ろを向いてしまう、そんなお釈迦様に人間味を感じさせる、嵯峨狂言を代表するヤワラカモンの演目です。

2020年時の嵯峨狂言クラブのメンバー（筆者は前列右端） 狂言堂

①15歳 ②嵯峨小学校 ③「釈迦如来」：寺侍

嵯峨狂言クラブ公演「釈迦如来」の出演メンバー（筆者は左端二人目）（2020年3月7日）

当時小学4年だった私は寺待役をやりました。寺待は侍なので動きを固めに大きくします。かつ、コミカルなストーリーであるため強すぎる演技も相応しくありません。また、アドリブで動くことが多く、決まったやり取りのない場面が多くあります。決まったやり取りがないということはその場面でそのキャラクターだったらどんな動きをするのかを考えながら演じる必要があります。動きの特徴を考えながらその役になり切って動く、とても難しいことですが、いざ本番になり、衣装を着て面をつけて演じると、より役に入り込めて楽しいです。そして、狂言クラブで舞台の上に立って役を演じる経験を通して、多くの人の前に立って自分の意見を自信を持って伝えることができるようになりました。今の学校生活でもその経験が役立っていると実感しています。狂言クラブから卒業した現在、舞台の一端を担う囃子方・笛方として、そして狂言クラブの出身者で結成された「若葉会」という集まりで演者として参加しています。伝統芸能の演者は従来から男性が中心です。そのため女性が演者として舞台に立つことが難しいとされています。嵯峨大念佛狂言もその例外ではありませんが、保存会の方々の柔軟な考え方で演者を続けられることになりました。この貴重な機会を大切にし、子供中心の狂言クラブから保存会につながるステップの一つになれるよう、「若葉会」での活動も頑張っていきたいと思います。

（現在、若葉会会員）

「釈迦如来」公演（筆者は左端）（2020年3月7日）

演目理解のための冊子作りをめざして

爲季 法子（保護者）

保存会の春季公演「餓鬼角力」に出演した息子たち（シテ柱の右側二人）
狂言堂（2024年3月）

狂言クラブでは、毎年度末に発表会を開催し、子どもたちの稽古の成果をお披露目する機会をいただいています。そこで発表される演目の内容や演者である子どもたちについて、来場された皆さまにわかりやすくお伝えしたいと、当時、狂言クラブ保護者の高尾美穂さんが発表会のパンフレット制作を始められました。私は2014年より、引き継いでパンフレット制作を担当しています。

子どもたちが演じる演目は、嵯峨狂言の保存会が毎年開催している定期公演と同じ内容を基本としており、身振り手振りでストーリーを伝える、一部の人しか文字を読めなかった時代から受け継がれた伝統的な手法で学んでいます。稽古では台本は使わないため、セリフや動作指示など演技に関わる記録は手元に残りません。

また、年齢や狂言歴に関係なく、すべてのクラブの子どもたちに舞台経験を提供したいという配慮から、その年の部員数や学年の構成によって演目内容を変更されることもあります。時には別の演目を付け加えたオリジナルの脚本になるケースもあり、その年の子どもたちの公演でしか見られない特別な演目になることもあるのです。

平成26年10月に開催された発表会のパンフレット

このような特徴を踏まえ、後に子どもたちが自身の活動を振り返ったときの大切な記録として残るよう、詳細なあらすじを掲載しています。また、稽古風景の写真をできる限り載せ、伝統ある嵯峨大念佛狂言に向き合う子どもたちの姿を多くの人たちにお伝えしたいと考えています。

そして、無言劇である嵯峨大念佛狂言を、特に初めてご覧になる方にも、動作の意味を汲み取りながら楽しんでいただけるよう、このパンフレットを演目の理解を深める一助として活用していただければ幸いです。

2022年「船弁慶」の稽古風景

2024年の発表会「蟹どん」の稽古風景
（上・下）

会報誌 図書館 Ⅲ期

Ⅲ期の会報誌は、前項にあった通り保護者の爲季法子さんの手による、印刷された「パンフレット」です。
大人の狂言公演でもなかなか見られない美しいデザインです。

2017年2月に夢窓幼稚園で
開催された発表会のパンフレット

2019年2月に夢窓幼稚園で
開催された発表会のパンフレット

2021年3月に狂言堂で開催された公開稽古のパンフレット

2024年3月に狂言堂で開催された発表会のパンフレット

「綱」の面の拡大写真を見ながらレリーフ作製中

文とお面　高尾美穂

記念誌表紙の「綱の面のレリーフ作りを終えて

「現役部員たちの「今」を記念誌に反映させたいね。」という話が出たのが契機となり、子供達一人一人に「綱」の面のレリーフを作ってもらい、それを表紙にするという企画がスタートしました。「綱」の面のレリーフとは、数年前に右京区役所主催「こどもシゴト博右京」で嵯峨狂言保存会ブースの体験用に考案したものです。勇猛果敢で忠義の武将の「綱」の面は狂言クラブの子には馴染み深いお面です。いざ自分達が作る側として「綱」の面に向き合ったら、子供達は何を感じるのか楽しみでした。

でも、そこに至るまでの準備はかなり大変で、退色した肌の質感を出すため布を紅茶で染め、低学年の子でも制作できるようにと試行錯誤を重ねました。さらに本番一週間前には保護者の方々にお手伝い頂き、台板を墨で塗り、新聞紙の骨格パーツ等を作りました。

制作スタート！ 真剣に説明を聞く子供達

紙粘土の上に布を被せて成形開始

耳も布で作ります

いよいよ制作本番は子供達を二グループに分けて二週に渡って実施。「綱」の面の拡大写真を見ながら先ずは粘土で鼻を作り、頬骨や眉間の皺などの顔の凹凸を成形します。そして布を被せた上から黒のアクリル絵の具で黒目を描くと急にお面に命が吹きこまれます。最初戸惑いながらやっていた子供達も皆真剣な表情になり、写真を見ながら眉毛や顎髭、鼻の穴等を一生懸命描いていました。制作時間は二時間弱。子供達それぞれのフィルターを通した表現はなんともユニーク！思わず見入ってしまいました。

お面の写真を見ながら彩色します

数日後、粘土が乾いて全員の作品が揃って狂言堂に掲げられると、子供達の「今」がしっかり反映されていると感じられて、とても嬉しかったです。私は「レリーフ作り」の為に何度も「綱」の面の試作をしましたが、彩色の筆を入れる度にいつも古の面打ち師とちょっと交信できたように感じていました。「綱」の面の拡大写真を見ると毛の一本一本の筆のタッチが良くわかります。それは紛れもなくその作り手の「今」の痕跡で、それを少し感じることができるからです。子供達は制作中にどんな事を感じたのでしょう。いつか機会があったら聞いてみたいです。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。

地域を越えて伝統芸能の次世代への継承、育成のあり方

天理大学国際学部
長谷川 奨悟

伝統文化の〈継承〉をめぐる現状

日本各地に今日まで伝承されてきた民俗芸能や伝統行事は、地域の再開発によるコミュニティーの瓦解、少子高齢化等の要因による担い手の不足や、次世代を担う後継者育成などの問題と向き合いながら伝承されてきた。しかし、地域のあり方や個人のライフスタイルの変化など地域をとりまく環境の変化が進む中で、慣習的な祭礼行事に対する考え方や意識の多様化などが重層的に結びつき、従来通りの継続的な実施がより難しくなった結果、休廃止に追い込まれる事例が顕在化している。2018年に東京文化財研究所無形文化遺産部が開催した第13回無形民俗文化財研究協議会などを通じて、無形民俗文化財の継続・伝承のあり方や後継者育成、記録作成による現状保存をめぐる問題が議論されてきた。これらを通じて行政担当者や研究機関、伝承者たちの様々なネットワークの中で共通認識となり、現状打開に向けた取り組みや情報が共有されつつあるといってもよい。

無形の文化財、とりわけ、慣習的な祭礼や民俗芸能など地域に根付いてきた地域文化の継承のあり方を考えるにあたり、問題視されるのが、（1）人的・組織的な課題、（2）経済的な課題、（3）伝承知識/学術的理解に関する問題の3つであるとされている。

祭礼や民俗芸能といった地域文化継承に取り組むにあたり、行政の支援にその一部を頼らざるを得ないとしても、基本的には、継承者自らの意思で自立し、問題の解決に向けて、あるいは継承活動の具体的な実践を模索していく姿勢が重要であるという。自立的かつ具体的に思案し、実践を試みる中で行政も補助事業の相談など様々な支援ができるというわけである。つまり、社会情勢の中で一部そのカタチをかえつつも、前提として人が支える無形民俗文化財を核とした地域社会の維持の歩みこそが重要であるという考え方である。

地域の子どもたちと関わり、継承者の若木をつくる

地域に伝承されてきた民俗芸能は、かつての嵯峨大念佛狂言講のように、講（社中）に属する家の子どもがある一定の年齢になると加盟し、世襲的に継承されてきた場合も多い。それが、社会状況の変化によって難しくなると後継者不足に陥

写真1

るなど、継続的な活動を困難となり、休止状態に追い込まれた事例は少なくない。保存会という新しい形態に変わって、活動を復活させたとしても次世代を担う後継者の育成は、頭の痛い問題であり続けている。

私が関わりを持たせていただいた京都の保存会を事例に若手育成や子どもたちとの関わりをみてみれば次のように区分できよう。①子どもたちも最初から保存会のなかで活動する場合（千本ゑんま堂大念佛狂言）。②地域のクラブチームのように地域内外の子どもたちを受け入れ、活動する下部組織をもつ場合（嵯峨大念佛狂言）。③小学校の地域学習と結びつき、保存会の会員が指導、支援して小学校のクラブ活動として活動している場合（京都こども六斎教室）。そして、子どもの関わりが一過性であれば、④地域の小学校で参加者を募集している場合（はねず踊り）である。いずれの場合も、中学生になれば、女子の継続的な参加が難しくなる場合、学業や別のクラブに時間がとられ芸能の活動から離れる場合も多く、長く続けてくれる子どもたちは希であるという。一方で、かつて母親や近所のお姉ちゃんも参加した経験をもち、活動を進めてくれたなどの声を聞くと、身近に経験者がいるという現状は、子どもたちが様々なサポートを受けることが可能であること、民俗芸能や地域文化に関する正しい理解を広めるという点において、その活動を続けることは極めて重要であることがわかる。

佛教大学宗教文化ミュージアムオンデマンド（Webページ）

嵯峨狂言クラブの活動をどう捉えるのか

私が嵯峨狂言クラブ（以下、狂言クラブ）の活動を本格的に取材したのは2019年・2020年のことである。保存会や狂言クラブの保護者の理解と協力により、第40回シアター公演「民俗芸能を担う若者たち」（2019年6月／写真1）、佛教大学宗教文化ミュージアムオンデマンド「民俗芸能を担う若者たち」（2020年Web公開）としてその成果を公開することができた。

嵯峨大念佛狂言保存会による若手育成の実践の場である狂言クラブは、創設から36年の歴史を持ち、地域の子どもたちにとっては、自分たちの地域に根付く民俗芸能を体験できる場であり、そのうち数名が保存会の会員として継続的な活動を続けている。ここで活動する子どもたちは、しっかりと基礎を学び、いずれの役でもできるように一連の稽古を経験するという（写真2）。保存会の大人たちや、地域の大人たちが支援しており、関わりに濃淡はあるものの、関わる大人たちの

数は非常に多いため、大人たちが言うこと一様にみな同じではない。指導も様々であり、稽古を重ね、せっかく覚えた所作が本番直前に否定されることもある。

写真2

子どもたちは、他者から異なる指導を受けた際に、自ら判断し、乗り越え演技に結びつけてきたという。これは、10数年前に文科省が標榜した「生きる力」の中で、地域社会での教育を強調してきたなかで考えてみれば、ここで活動する彼ら彼女らは、嵯峨大念佛狂言を媒介に、多様な人たちと関わることで培われる「自主的な判断と行動力」を発揮しているといえよう。狂言クラブのこれらの実践は、単に、嵯峨大念佛狂言が次世代の担い手をつくることにとどまらず、地域に根付いた民俗芸能を媒介とした、地域社会による「人間力」の育成の実践であるといえるのかもしれない。

さて、これらは前述した地域の伝統文化を続けていく前提である「人が支える無形民俗文化財」を核とした地域社会の維持の歩みにもつながる取り組みである。狂言クラブなどのような実践が地域を越えて広まり、地域の子どもたちに対して民俗芸能や地域祭礼を媒介とした「人間力」育成の取り組みの輪が広まることを願いたい。今を生きる大人たちは、次世代の担い手である子どもたちが稽古の成果を披露すれば「上手にできたね」と褒めてあげてほしい。うまく出来たという経験は彼ら/彼女らの成功体験となり、継承への手助けとなるはずなのだから。

嵯峨大念仏狂言 保存会の指導で立派に継承

嵯峨小の児童たち

「かにどん」と「餓鬼角力」を熱演

写真3 嵯峨学区の敬老交流会に初出演した狂言クラブ（朝日新聞 1988年11月12日）

【参考文献】 國學院大學研究開発推進機構学術資料センター（2020）『文化財の活用とは何か』一六書房
佛教大学宗教文化ミュージアム（2024）『地域文化を継承する』

嵯峨大念佛狂言保存会事務局長
加納 敬二

これからの嵯峨狂言クラブ

―嵯峨大念佛狂言を支える第二の存在として―

保存会の結成と活動

現在、嵯峨大念佛狂言（以下、嵯峨狂言）は嵯峨狂言保存会で保存・運営が行われている。その以前は「大念佛講（鉦講ともいう）」と称された釈迦堂清涼寺における檀家の相互扶助的な共同体組織によって伝えられ、寺院と一体化して「大念佛会」という宗教行事に伴う布教のために念佛狂言が演じられてきた。しかし第二次世界大戦以降、社会の変化などに伴い、1963年（昭和38年）には檀家の激減により念佛講の後継者も続かなくなり、また、資金面などの経済的理由からも狂言も中断状態となった。その12年後、古典芸能の見直しがブームとなった1975年（昭和50年）、嵯峨狂言復活の機運が地域でも高まり、地元の古老の熱い想いにより復活し、念佛講に代わり「嵯峨大念佛狂言保存会（以下、保存会）」が結成された（写真１）。1985年（昭和60年）には、その独特のユーモラスなしぐさや歴史的価値が認められて、国の重要民俗無形文化財に指定された。京都府では壬生狂言や祇園祭山鉾巡行などに続き、国の重要文化遺産として５件目となった。以来、今日まで嵯峨狂言は中・高校生を含む約30人の会員で、春・秋季公演などの定期公開を清涼寺境内の狂言堂で行い、またホテルや学校、遠くは海外でのイベント（近年では韓国・大邱のオペラハウス）や大阪の国立文楽劇場などでの出張公演も行うようになった。最近では近隣小学校への出前授業や、高校・大学生を対象にした狂言堂での体験学習も積極的に実施している。

写真1
1975年（昭和50年）
「京都新聞」復活記事

狂言クラブ発表会で解説する筆者　夢窓幼稚園ホール
2010年３月

狂言クラブの創設

1988年（昭和63年）嵯峨狂言存続の危機を再来させないためと、保存会を結成した古老たちと地元小学校が立ち上がり、嵯峨（子供）狂言クラブ（以下、狂言クラブ）が創設された。嵯峨小学校を中心に嵐山・広沢小学校（元嵯峨学区）の小学生を対象に始まった狂言クラブは、嵯峨狂言への後継者育成にとっては大きな原動力として期待された。保存会の故松井秀夫会長はじめ故中村善一郎氏や小泉順邦氏らの狂言への愛情を込めた「伝統と自主性」を重んじる熱心な指導でクラブ出身の保存会員も育っている。また保存会の中心的存在としても活躍している。保存会結成以前は念佛講が嵯峨狂言を担い、地域の長男が一定の年齢になると加入し世襲的に継承していくことが慣習であった。それから50年以上経った今、狂言クラブ出身者が中心となり引き継いでいく時代に変わろうとしていく過渡期だと想いたい。

【参考文献】　植木行宣（1985）「嵯峨大念佛狂言」『嵯峨大念佛狂言』
嵯峨大念佛狂言保存会（2018）「よみがえる嵯峨狂言堂」

写真2
「親子土壁塗り体験会」の様子

これからの狂言クラブ

嵯峨狂言が演じられる狂言堂は室町時代には本堂北（推定地蔵院跡）に建てられていたと伝わるが、その後、江戸時代と明治時代末期の二度、境内で移動され今に至る。100年以上経た建物の老朽化が激しかったことから文化庁の助成を受け2016年（平成28年）11月１日着工で2018年（平成30年）９月完成の約２年近くにかけて嵯峨狂言堂修復工事が行われた。2017年（平成29年）８月10日の修復工事見学会では狂言クラブのメンバーが中心になり「親子土壁塗り体験会（写真２）」を行った。講師は現場で施工中の左官職人さん。現在、こうした技術は後継者不足のため問題に直面しており、まずは技術の重要性を広く一般の方々に認知してもらうため伝統技術の公開、さらに完成した狂言堂で未来の嵯峨狂言を担う子供たちに体験してもらう必要性を左官職人さんは訴える。伝統技術の継承の重要性は嵯峨狂言に置き換えても同様である。36年継続中の狂言クラブの活動が地域体験学習としても注目されている。今後も嵯峨狂言堂を拠点とし伝統芸能・技術の伝承を中心に、未来に向け地域で嵯峨狂言を保存会と共に支え守り継いでいく（写真３）存在としての狂言クラブのあり様が強く望まれる。

伝統芸能 地域で守り継ぐ

保存会が瓦修復 寄付金集め

写真3
2018年3月26日
「京都新聞」朝刊

附章・会則

嵯峨狂言クラブ

第一章　名称・事務所

第一條　本クラブは「嵯峨狂言クラブ」と称す。
本クラブの事務所は嵯峨釈迦堂藤ノ木町四十六番地、五台山清凉寺内に置き、稽古は主に狂言堂内で行う。

第二章　目的

第二條　本クラブは、地域に根ざした学校教育という教育方針に依り嵯峨大念佛狂言の後継者育成、文化財、伝統行事等の伝統文化の保護・振興事業を目的とする。

第三章　事業

第三條　本クラブは前條の目的を達成するため左記の事業を行う。

一、嵯峨大念佛狂言の後継者育成のため演技の伝承、啓蒙活動を行う。

二、毎年三月に嵯峨釈迦堂・狂言堂にて一年間の成果公開を行う。
その他、狂言堂以外で依頼があれば出張公演も行う。

三、他の民俗芸能等の見学を行う。

四、毎年一回文化財、民俗資料等の見学を行う。

第四章　クラブ員

第四條　クラブ員は、主に京都市内の小学生で構成する。

第五條　稽古は、原則として毎週土曜日の午後に行う。
適宜日数は増減する。

第六條　稽古には、指導者一名以上で指導、監督に出席する。

第七條　クラブ員の募集は、学校、保護者、指導者の三者が協力して毎年行う。又、不定期に行うこともある。

第八條　本クラブ員よりクラブ会費を必要時に徴収する。金額は運営委員会にて決定する。

第五章　クラブ役員

第九條　クラブには、次の役員を置く。

一、児童より部長、副部長各一名。

二、保存会より、顧問、代表、指導者若干名
（計　三名以上）

三、保護者より、児童の部長、副部長の保護者、会計、会計監査（計　四名以上）

四、前記の保存会、学校、保護者の役員で運営委員会を構成する（合計十名以上）

五、役員は、前年度運営委員会で推薦し、保護者会にて承認を得る再任は妨げない。

第十條　役員は運営委員会より、顧問・代表・指導部長（保存会）、部長（保護者）、副部長（保護者）会計（保護者）会計監査（保護者から二名）を選出し、保護者会で承認を得る。

第六章　会議

第十一條 会議は、保護者会と運営委員会とする。

一、会議の議長は、保存会より選出する。

二、保護者会、運営委員会の定足数は、過半数とし、その過半数をもって決定する。

第十二條 総会は、毎年一回指導者、保護者のもとに開催し、クラブの年次計画、予算、決算等の承認を行う。

第十三條 総会は、代表が招集する。

第十四條 運営委員会は、必要に応じ、その委員会構成員が招集できる。

第十五條 その他臨時会議の開催は、クラブ構成員のだれでも運営委員会に請求できる。

第七章　会計

第十六條 クラブの会計年度は、四月より始まり三月にて終わる。

第十七條 本クラブの費用は、会費、寄付金、助成金にて運営する。

第十八條 後援団体など外部からの助成金、寄付金の会計は、保存会より会計が行い、会費、その他クラブ内の収支は保護者より選出された会計が行う。

第十九條 クラブ会費は、必要時に徴収する。

第八章　附則

第二十條 クラブ会則の施行にあたり改正が必要な事項を生じた時は、運営委員会出席者の過半数の賛成にて承認を受け、総会出席者の過半数の賛成で改正できる。

第二十一條 本会則は、一九八九年　四月一日より施行する。
本会則は、二〇一四年　八月一日一部改正する。
本会則は、二〇二二年　四月一日一部改正する。

以上

（公財）森村豊明会による「2024年度全国の地域民俗芸能の後継者育成を推進するための、嵯峨狂言クラブ記録冊子作成」助成事業である。

また京都市文化観光資源保護財団による「2024年度次世代継承事業」からも助成を受けている。

京都・嵯峨狂言クラブ記念誌

嵯峨狂言クラブ創立36周年

編集・発行　嵯峨狂言クラブ
〒616−8447
京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町46

印　　刷　株式会社 北斗プリント社

発 行 日　2025年1月30日

嵯峨狂言クラブ
入会募集中!!

嵯峨狂言クラブに入会して、
国指定重要文化財の嵯峨大念
佛狂言をやってみませんか。
毎週土曜日午後２時～５時、
嵯峨釈迦堂清凉寺内の狂言堂
にて狂言の稽古をしています。

嵯峨大念佛狂言
HP

嵯峨大念佛狂言保存会
公式 YouTube チャンネル

背表紙の面：「釈迦如来」「愛宕詣」の娘に使用

総峨狂言クラブ
創立36周年